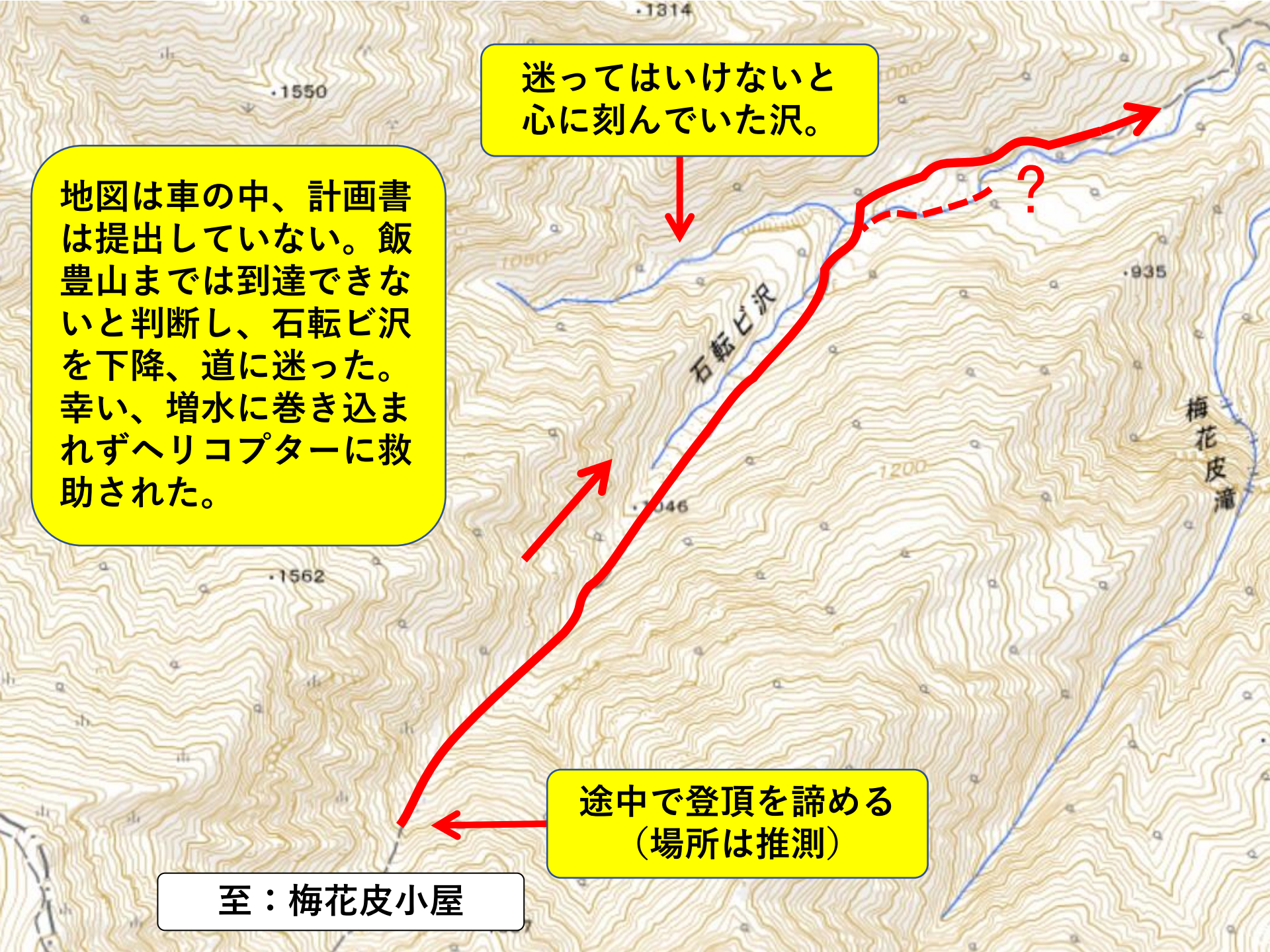


地図は車の中、計画書は提出していない。飯豊山までは到達できないと判断し、石転ビ沢を下降、道に迷った。幸い、増水に巻き込まれずヘリコプターに救助された。

迷ってはいけないと心に刻んでいた沢。

途中で登頂を諦める
(場所は推測)

至：梅花皮小屋



これ以上登れないと思って引き返したら、迷ってしまった。どこまで行って引き返したのか定かではないが、石転ビノ出合まで下り、そのまま右岸を下った。なぜならば、地図やガイドブック類は自宅や車の中に入れ、山中には携行していないからだ。脳裏には「登りの時に右の沢(門内沢)に入り込んではいけない」と強く刻まれており、「下りの時には左に行っては行けない」と思い込んでいた。石転ビノ出合の下流右岸に絶好の岩屋を見つけ救助を待った。しかし、その場所は、雨が降った場合、水没し安全な場所ではなかった。（HP参照）

この事例では、①単独行動で地図とコンパスを持っていない。②計画書を提出していない。ことが問題と思われる。自分是不慣れな地域で、しかも単独の場合は、地図とコンパスを持たずに山に入ることは考えられない。行動が不安になり、山行そのものが心配になるからだ。ガイドブックや地図を事前にいくら見てもその場で現在位置確認をしなければいけないと思うのだが・・・。とにかく、必要な装備は持つ。ナビゲーション技術を身につけることをお願いしたい。